

## 情報リテラシー教育 郡山市立湖南小中学校（前期課程）

キーワード：自己マネジメント力、タイムマネジメント、リスクマネジメント  
ルール作り、教科等横断的な情報モラル教育

### I 研究について

#### 1 情報モラル教育に関する学校の現状と課題

本校は小中一貫の義務教育学校であり、前期課程と後期課程の指導のつながりを見据えながら学習・生活指導ができる。しかし、学校生活アンケートからメディアの使用やモラルに関する問題や課題が多いのが現状である。

本校は、通学区域が広く、友達と実際に会って遊ぶ機会が少ない。また、スマートフォンやタブレット、ゲーム類を介して遊ぶため、それらの機器の所有率が高い。中には、所有率100%の学級もある。さらに、YouTubeの視聴時間やオンラインゲームなどの利用時間も長く、平日に2時間以上使用している児童が50%を超え、それらでコミュニケーションを取っている児童も50%以上見られる。その一方で、スマートフォンやタブレット、ゲームなどの使用に対するルールを決めていない家庭が60%以上あるのが現状がある。過去には、オンラインゲームでの金銭を伴うトラブルや仲間外れにするという事例も見られた。

そこで、前期課程では、実例を基にメディアの正しい使用方法や付き合い方などの学習を行うと同時に、保護者への啓発や講師を招いての親子講習会を通して、情報モラルの向上につなげたいと考えた。また、メディアコントロール週間を設定し、家庭でのメディアに対する意識を高めさせていきたい。

#### 2 実践概要（研究授業、授業実践、講演会等）

時期	実施内容
5月26日	第1回 校内研修「メディアリテラシー育成事業の方向性」について
6月16日	第2回 校内研修「児童生徒・保護者アンケート」について
6月中旬	○ 児童のメディア使用状況及び保護者のメディアに対する調査 1回目
7月1日	第3回 校内研修「教材の作成」について
7月14日	○ 研究授業（第5学年：学級活動） 「情報モラル～スマートフォンの正しい使い方～」
	○ 郡山女子大学短期大学部 山口 猛先生による講演会（教師向け）
9月1日	第4回 校内研修「情報教育全体計画」について
10月20日	第5回 校内研修「教材の作成」について
10月25日	○ 研究授業（第3学年：国語科） 「進行を考えながら話し合おう～はんで意見をまとめよう～」
	○ 郡山女子大学短期大学部 山口 猛先生による講演会（児童・保護者向け）
11月下旬	○ 児童のメディア使用状況及び保護者のメディアに対する調査 2回目
11月30日	○ 令和3年度ふくしま教育創造コンソーシアムでの発表
12月1日	第6回 校内研修「実践のまとめ」について
12月6日	○ 令和3年度ふくしま「未来の教室」地区別研究協議会での発表



点を生かしながら自分の1日のスケジュールを見直し、改善することができた。また、タイムマネジメントをする重要性に気付くことができた。

(2) 第3学年 国語科 進行を考えながら話し合おう「はんで意見をまとめよう」の実際

8 学習過程			
段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ◇評価
課題把握	1 前時までの学習内容を確認し、本時の課題を把握する。 ② 「YouTube」を使う時、どんなことに気をつけたいのか。	4	○ 前時までの学習をふり返り、本時の学習の内容について全体で確認する。 ○ 情報機器について説明する。 ○ 司会などの役割を意識して話し合いをすることを強調して伝える。
見直し	2 見通しをもつ。 (1) 各グループで役割を確認する。 (2) 話し合いの進め方を確認する。	3	○ 役割を一つ一つ確認し、それぞれのグループでの役割を確認する。 ○ 模造紙に書き込みながら話し合いをすることを確認する。
課題追求	3 話し合う。 (1) 「YouTube」について思いつくことを出し合う。 ・楽しい ・おもしろい ・たくさん見る ・毎日見てる ・けっこう見てる ・広告 など (2) 「YouTube」を使う時の家での約束を出し合う。 ・時間を守って見る。 ・見守り設定を守る。 ・曜日だけしか見てはいけない。 など ここで情報モラルにふれた。	20	○ 役割を意識しながら話し合いをするように声をかける。 ○ 「YouTube」について思いつくことを自由に書かせるようにする。 ○ 記録が模造紙に書き込まれるようにする。 ○ 子どもが事前に書いたものを基に、「YouTube」を使う時の家での約束を書き出すように促す。 ○ ワークシートなどを参考に話し合いを進める。 ◇ 話し合いを果たしながら、考えをまとめる。 (観察)
	4 ルールがある理由を全体で共有する。 → 勝手に動画をのせない。 → なぜ? → 肖像権や著作権があるから。事件にも。 → ルールを守る。 → どんなルール? → 時間を守る。 → なぜ? → 目が悪くなる。宿題ができない。寝れなくなる。 など	10	○ グループの代表に発表させる。 ○ 発表されたものについて、根拠を基に考えさせる。 ○ 違法アップロードされているものなどの写真を見せる。 ◇ ルールの役割を考えることができたか。(観察)
振り返る	5 まとめる。 ③ ・見すぎないようにする。 ・見てはいけないものは見ないようにする。 ・時間を守る。	8	○ 本時の話し合いを通して、話し合いについてのふり返りや、これから YouTube をどのように使っていくかをワークシートに書かせる。 ◇ 話し合い活動を通して、YouTube の使用について考えることができた。(ワークシート)
	6 本時のふり返りをする。 7 次時の予定を確認する。		

① 教科等横断的な情報モラル教育  
教科等横断的な情報モラル教育とは教科(国語科や社会科など)の授業の一部に情報モラルを取り入れ、どの教科でも情報モラルを行う取り組みである。

教科等横断的な情報モラル教育の実践として、第3学年国語科「進行を考えながら話し合おう」という単元の学習の一部で、情報モラルを取り入れながら、授業を展開していった。



② 動画のアップについて

YouTubeについての話し合いから、担任が撮影した児童の顔や名前などが映っている動画をYouTubeにアップしていいののかについて考えた。担任からの「楽しい動画だから、みんなに見てもらおうよ。」という発言に対して、子ども達からは、「みんなの顔が映っているからダメだよ。」や「個人情報が入っているからダメだよ。」といった発言が出てきた。そこから子ども達は、「個人情報」や「肖像権」があることについて知ることができた。



③ 違法アップロードされた動画の視聴について

公式にアップロードされている動画と実際に違法アップロードされている動画を比較して、違法アップロードされている動画を見ていいののかについて考えた。子ども達からは、「みんな見ているんだから、見ていいんじゃない。」や「コマーシャルでダメって言ってたよ。」といった発言があり、そこから違法アップロードされた動画を見てはいけないことや作品には「著作権」があることについて知ることができた。



## 2 情報モラル講演会の様子

(1) 第1回情報モラル講演会（教員対象） 令和3年7月14日

「今後の情報モラル教育の在り方」

講師 郡山女子大学 短期大学部 地域創成学科 准教授 山口 猛 様



第1回情報モラル講演会として、郡山女子大学短期大学部地域創成学科の山口先生から教職員を対象にお話をいただいた。「スマホ使用の現状と問題点」と「学校での情報モラル教育の取り組み」について御講演いただいた。特に「学校での情報モラル教育の取り組み」についての講話では、第1回の授業研究会で行った「タイムマネジメント・リスクマネジメント」を実践していくことや保護者を巻き込んで、家庭でのルールづくりをすることなどが大切であるとお話していただいた。

(2) 第2回情報モラル講演会（児童・保護者対象） 令和3年10月25日

「SNSやオンラインゲームの正しい使い方」

講師 郡山女子大学 短期大学部 地域創成学科 准教授 山口 猛 様



第2回情報モラル講演会として、郡山女子大学短期大学部地域創成学科の山口先生から児童と保護者を対象にお話をいただいた。「インターネットの現状と特質」と「SNSやゲームなどの使用上の注意点」について御講演いただいた。特に「SNSやゲームなどの使用上の注意点」では、「個人情報の取り扱い」、「ゲーム内での課金やお金のやり取り」、「使用時間の把握」について詳しく話していただき、子ども達の現状に即した分かりやすい内容であった。子ども達は、真剣に山口先生の講演を聴くことができていた。

### 3 校内での実践

#### (1) 全学年 第1回授業研究会の内容を生かした情報モラル教育の実施

第1回授業研究会で行った授業を生かしながら、各学年の発達段階に合わせた内容で情報モラルの授業を全学年で実施した。

低学年では、どれくらいメディアを使っているのかを話し合う活動を通して、低学年なりのタイムマネジメントを行った。

中学年では、1日のスケジュールを可視化させながら、自分の使用時間を把握させ、1日のスケジュールを見直す活動を通して、タイムマネジメントを行った。

高学年では、1日のスケジュールを可視化させながら、自分の使用時間を把握させると同時に、メディア使用のリスクを考えるリスクマネジメントを行いながら、1日のスケジュールを考える活動を通して、タイムマネジメントを行った。



#### (2) 第5学年 情報モラル教育に関する授業参観（12月5日）

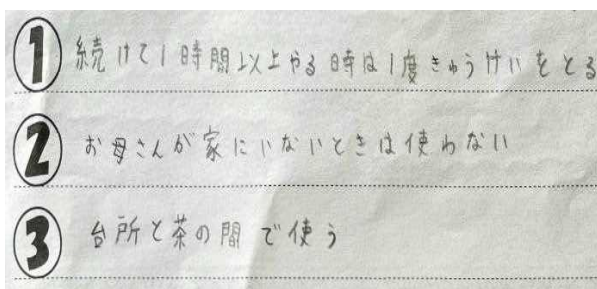
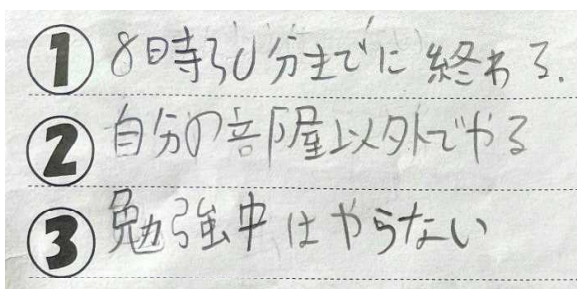


少しずつ自己マネジメント力の向上が見られるようになってきた。しかし、スマホやタブレットなどを使用する際のルールが決まっていない家庭が多いため、保護者も巻き込んだルール作りを行う目的で、情報モラル教育に関する授業を行った。

授業では、メディア使用に関する「時間・場所・場合」の3つの条件に関わるルールを考えた。作ったルールを継続して守れるように、無理のないようなルールとした。

保護者と一緒にルールを考えたことで、自分だけの考えではなく、保護者の願いも込められたルールを多くの児童が作ることができた。また、ただルールを作るだけではなく、実際に1週間実践させ、実践してみたの反省も行った。保護者を巻き込んだことで、保護者の情報モラル教育に対する意識の高まりが見られた。

#### 【児童と保護者で考えたルール】



① 8時30分までに終わる。

② 自分の部屋以外でやる

③ 勉強中はやらない

① 続けて1時間以上やる時は1度きりけいをとる

② お母さんが家にいないときは使わない

③ 台所と茶の間で使う

### Ⅲ 成果と課題について

#### 1 成果

- 第1回校内授業研究会でリスクマネジメントやタイムマネジメントについて考えさせたことで、日頃から注意しながらメディアを使用できるようになるなど、自己マネジメント力の向上が見られた。
- 第2回校内授業研究会で教科等横断的な情報モラル教育として国語科で実践したことで、各教科での情報モラル教育に関する在り方が明確になり、様々な教科で情報モラル教育に取り組む教師が増えた。
- 1年間を通して、学校全体で情報モラル教育について取り組んできたことで、児童と教員の情報モラルやメディア使用に関する意識が高まってきた。

#### 2 課題

- どの教科でも教科等横断的に実践していくためには、年間指導計画の作成及び実践を積み重ねながら、情報モラル教育をどの学年、どの学級でも手軽にできるようにしていきたい。
- 保護者の意識は高まってきたが、授業参観や保護者対象の講演会などを利用しながら、さらに家庭との連携を深めていきたい。
- 今後、前期課程、後期課程のつながりを意識した義務教育学校だからこそできる、計画的かつ継続的な情報モラル教育の実践を深めていきたい。